

電磁気学 演習第 7 回 — 多重極展開

問題 7.1 : グリーンの公式

(1) 任意の閉曲面 S (その囲む領域を V とする) と微分可能なスカラー場 $\phi(\mathbf{r})$, $\psi(\mathbf{r})$ について, 次の関係式が成り立つことを示せ.

$$\int_V \nabla \phi(\mathbf{r}) \cdot \nabla \psi(\mathbf{r}) dV = \int_S \phi(\mathbf{r}) \nabla \psi(\mathbf{r}) \cdot d\mathbf{S} - \int_V \phi(\mathbf{r}) \Delta \psi(\mathbf{r}) dV \quad (7.1)$$

$$\int_V \left(\phi(\mathbf{r}) \Delta \psi(\mathbf{r}) - \psi(\mathbf{r}) \Delta \phi(\mathbf{r}) \right) dV = \int_S \left(\phi(\mathbf{r}) \nabla \psi(\mathbf{r}) - \psi(\mathbf{r}) \nabla \phi(\mathbf{r}) \right) \cdot d\mathbf{S} \quad (7.2)$$

(2) 前小問の関係式を用いて, 領域 V 内の任意の点 \mathbf{r}_0 での静電ポテンシャルが次のように書けることを示せ.

$$\phi(\mathbf{r}_0) = \frac{1}{4\pi\epsilon_0} \int_V \frac{\rho(\mathbf{r})}{|\mathbf{r} - \mathbf{r}_0|} dV + \frac{1}{4\pi} \int_S \left(\frac{1}{|\mathbf{r} - \mathbf{r}_0|} \nabla \phi(\mathbf{r}) - \phi(\mathbf{r}) \nabla \frac{1}{|\mathbf{r} - \mathbf{r}_0|} \right) \cdot d\mathbf{S} \quad (7.3)$$

(3) 式 (7.3) はポアソン方程式の一般解で, 式 (5.11) はその特解である. 式 (5.11) が解になるためには, 式 (7.3) の右辺第二項が零になるように S での境界条件を適切に選ばなければならない. 領域 V は十分大きいものとし, その表面 S 上で静電ポテンシャルは角度によらないと仮定する $\phi(\mathbf{r}) \rightarrow \phi(r)$ ($r \rightarrow \infty$). このとき, 式 (7.3) の右辺第二項が零になるような $\phi(r)$ の関数形を求めよ.

問題 7.2 : 多重極展開

電荷密度 $\rho(\mathbf{x})$ が作る静電ポテンシャルを考える.

$$\phi(\mathbf{r}) = \frac{1}{4\pi\epsilon_0} \iiint \frac{\rho(\mathbf{x}')}{|\mathbf{r} - \mathbf{x}'|} d^3x' \quad (7.4)$$

ここで, $\mathbf{r} \cdot \mathbf{x}' = r x' \cos \theta$ とするとクーロン相互作用は次のように表せる.

$$\frac{1}{|\mathbf{r} - \mathbf{x}'|} = \frac{1}{r} \frac{1}{\sqrt{1 - 2(x'/r) \cos \theta + (x'/r)^2}} \quad (7.5)$$

電荷 $\rho(\mathbf{r})$ が有限の領域にのみ分布すると仮定して, その領域よりも十分遠方 $r \gg x'$ でのポテンシャルの近似形を求めよう.

(1) 式 (7.5) をテイラー展開し, (x'/r) の二次の項まで書き下せ.

(2) 前小問 (1) の結果から, 静電ポテンシャルが次のように展開できることを確認せよ.

$$\phi(\mathbf{r}) = \frac{1}{4\pi\epsilon_0} \frac{q_0}{r} + \frac{1}{4\pi\epsilon_0} \frac{\hat{\mathbf{r}} \cdot \mathbf{p}}{r^2} + \frac{1}{4\pi\epsilon_0} \frac{3}{2} \frac{\sum_{i,j=1}^3 Q_{ij} \hat{r}_i \hat{r}_j}{r^3} + O\left(\frac{1}{r^4}\right) \quad (7.6)$$

ここで, q_0 , \mathbf{p} , Q_{ij} は, それぞれ全電荷量, 電気双極子モーメント, 電気四極子モーメントテンソル成分であり, $\hat{\mathbf{r}} = \mathbf{r}/r$ とする.

(3) q_0 , \mathbf{p} , Q_{ij} を $\rho(\mathbf{x})$ を用いて書き表せ.

問題 7.3：電気双極子

- (1) 点 $\mathbf{P} = d\mathbf{e}_z$ に電荷 q , $\mathbf{P}' = -d\mathbf{e}_z$ に電荷 $-q$ をおき, qd を一定に保ちながら $d \rightarrow 0$ の極限をとったときの静電ポテンシャルを求めよ.
- (2) この系の全電荷量 q , 電気双極子モーメント \mathbf{p} , 電気四極子モーメントテンソル成分 Q_{ij} を求めよ.
- (3) 一般に電荷 q と $-q$ の対について, 電荷 $-q$ から電荷 q へ向かう変位ベクトルを \mathbf{d} として qd を一定に保ちながら $d \rightarrow 0$ の極限をとったものを電気双極子といい, その電気双極子モーメントは $\mathbf{p} = q\mathbf{d}$ である. 電場 \mathbf{E} の中に電気双極子 \mathbf{p} があるとき, この双極子に働く力を求めよ (ここでは, 双極子の作る電場は考えなくて良い).
- (4) 原点に電気双極子 \mathbf{p} があるときの点 \mathbf{r} における電場 $\mathbf{E}(\mathbf{r})$ を求めよ.

問題 7.4：レポート問題

球座標系のラプラス演算子が次のように書けることを示せ.

$$\Delta = \nabla \cdot \nabla = \frac{1}{r^2} \frac{\partial}{\partial r} \left(r^2 \frac{\partial}{\partial r} \right) + \frac{1}{r^2 \sin \theta} \frac{\partial}{\partial \theta} \left(\sin \theta \frac{\partial}{\partial \theta} \right) + \frac{1}{r^2 \sin^2 \theta} \frac{\partial^2}{\partial \varphi^2} \quad (7.7)$$

以上